



あきた産業デザイン支援センター事業

和室向け製品の市場縮小見据え 技術を生かして海外向け製品開発

ピーク時の20分の1にまで激減しているという和室向け木製品の需要。その資源と製造技術を生かして海外向け製品の開発に着手。海外市場のニーズにマッチした製品づくりにあきた産業デザイン支援センターの協力を仰ぐ。

菊地合板木工株式会社

〒018-1711
秋田県南秋田郡五城目町高崎字里下82-3
Tel. 018-852-4105
Fax. 018-852-4991
<http://kikuchi-mokko.com/>

和室建具の製造技術を海外向け製品に

五城目町の菊地合板木工株式会社は、張り天井の製造会社として昭和35年に創業した。昭和42年に集成材製造設備を導入し、現在は集成材に杉や檜などの化粧単板を張ったもので柱、鴨居、敷居など、和室用の部材を製造しハウスメーカーに供給している。

障子や襖なども「ユニット建具」と呼ばれる組み立て式の製品を開発して、時代感覚にあった住宅用木工製品の製造に取り組んでいる。

しかし現代は住宅の洋風化で純然たる和室はピーク時の20分の1にまで減っていると言われ、和室向け製品の製造だけでは頭打ちになってしまう状況にある。

そのため菊地合板木工では、和室部材や建具の製造技術を生かして海外に売れる製品をつくれなかと模索している。その足がかりとして、障子の構造と技術を生かしたスクリーン(衝立)をヨーロッパに売り込むところからスタートさせた。これまでにフランスやロシアにも商談に出向いている。

現地の評価は高いが、コンテナ単位での取引でないことと採算が取れないため、大口の買い手を探すのが課題となっている。

産業デザイン支援センターの協力を仰ぐ

海外向けの製品は、単に日本風であれば良いという訳ではなく、たとえばロシアのバイヤーからは、紙の部分にオランダ風車やエッフェル塔、ベニスのゴンドラを塗り込んでほしいという要望があった。

そのような海外の顧客の要求に的確に応え、迅速に対応するべく、同社ではあきた産業デザイン支援センターの協力を仰いでいる。

今は、同じくロシアから、棚板のついたスクリーンがつくれなかとという要望があり試作を進めているところだが、同センターから仕上がり予想イメージといえるレンダリングの作成協力を仰ぎ、開発スケジュールの大幅な短縮を可能にしている。

先遣隊の思いで海外展開を続ける

菊地合板木工は平成13年には中国に進出して現地生産を行っており、海外進出には一定の経験とノウハウがある。菊地成一社長は「秋田の会社が海外を目指す時に私どもも何かしらのお力添えが出来るのではないかと。そういう“先遣隊”の思いで海外展開をしています」と地元への強い思いを持っている。



- 1 伝統的な建具の技術を生かしながら欧米人好みのデザインを取り入れる。
- 2 海外市場の開拓に力を入れている菊地成一社長。
- 3 化粧単板集成材の製造が現在の事業の軸。集成材の製造に威力を発揮する回転式コンビナー。
- 4 秋田杉の無垢材を使ったドアの商品開発にも取り組んでいる。

事業の解説

あきた産業デザイン支援センター事業

伝統的工芸品をはじめとする県内製造業を対象に、産業デザイン・製品開発・マーケティング等について専門的な助言を行います。また、「あきた産業デザイン協議会」と連携し、県内企業への産業デザインの導入を促進します。

【制度の利用・お問い合わせについて】

あきた企業活性化センター／あきた産業デザイン支援センターまで。